

職域健診および住民健診におけるメタボリックシンドロームとロコモティブシンドロームの
リスク因子および増悪因子に関する横断的・縦断的検討

栄養学科 熊谷貴子

研究の目的

一般住民健診および特定健診受診データと生活習慣等の結果を用いて、メタボリックシンドロームおよびロコモティブシンドロームの関連、リスク因子や増悪因子を横断・縦断検討し、エビデンス構築と一次予防や保健指導の一助とすること。

研究方法

- 1) 対象者は、A県在住でZ健診センターの健診を受診した男女6.5万人
- 2) 年間6.5万人を、2001年～追跡。生化学検査、栄養調査、運動調査の状況調査
- 3) 随時尿による、1日推定食塩排泄量と腎機能の調査
- 4) ロコチェック25による、ロコモティブシンドロームの実態調査

調査結果

- 1) メタボリックシンドロームの該当者は、全国や青森県より低い割合。
- 2) 特定健診受診者で、糖尿病、腎疾患を除いた対象者のうち約11%は腎機能の評価が「医療機関の受診」「再検査」であった。
- 3) メタボ非該当者、予備軍、該当者とレベルが上がるにつれて、1日の推定食塩排泄量も増加した。

まとめ

引き続き、健診データの解析を行いメタボリックシンドロームと生活習慣等とのリスクを解析する。結果を論文として公表し、本県の健康寿命の延伸活動に役立てる。

その他

ロコモティブシンドロームの実態調査は、平成28年度より開始する。